

# 滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和4年度第2回会議

日 時 令和5年（2023年）1月13日（金）

13時10分～15時25分

場 所 琵琶湖博物館1階セミナー室

## 会 議 次 第

1 開 会

2 会長・副会長の選出について

3 議 題

- (1) 滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく  
令和3年度事業の内部評価と外部評価について
- (2) その他

4 閉 会

## 1 開 会

○司会：それでは、定刻になりましたので、ただいまから滋賀県立琵琶湖博物館協議会令和4年度第2回会議を開会いたします。

開会に当たりまして、館長の高橋よりご挨拶申し上げます。

○館長：失礼いたします。

皆様、新年早々にお集りいただきまして、どうもありがとうございます。

今回から第14期の協議会が始まるということになっておりまして、多くの皆様が引き続きご多忙の中、委員をお引き受けいただきまして、またここに参加していただきますことを感謝申し上げます。どうもありがとうございます。

委員の方々のご紹介は後ほどさせていただくことになっておりますけれども、今期新たに募集いたしました公募委員として、遠藤正一様、井本望夢様にご参加していただいております。遠藤様におかれましては、引き続きましてご参加いただきましたことを大変ありがたく思います。ありがとうございます。また、井本様におかれましては、ご専門がデータ分析ということですので、博物館の弱点を分析して、いろいろまた読み解いていただけるのではないかとということで、大変期待しているところでございます。どうぞ委員の皆様、よろしくお願いいたします。

また、新たな委員として、元三重県総合博物館館長で、現在、全日本博物館学会会長の布谷知夫様にもお願いしております。布谷さんは三重県総合博物館の館長になられる前は、琵琶湖博物館にも勤めておられまして、当館の事情もよくご存じだということもありますし、それから令和4年度の文化庁長官表彰というのを受けられておりまして、日本の博物館事情にも精通されているということでお願いした次第でございます。本日は残念ながら、体調をちょっと崩されたということでご欠席になりましたけれども、早期のご回復を心からお祈りする次第でございます。

さて、本日は、「滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく令和3年度事業の内部評価と外部評価について」という議題で、皆様にいろいろご意見をいただくことになっておりますけれども、先般、皆様にはこの委員会とは別に、さらに時間を使っただきまして、外部評価をしていただきました。大変ご苦勞をおかけしましたことをおわび申し上げるとともに、お礼を申し上げたいと思います。

しかし、皆様にそのようなご苦勞をしていただいたおかげで、いろいろ評価をいただ

きましたので、私たち自身が自分たちでつくった計画を見詰め直す機会をいただきました。これは大変よかったなというふうに思っております。

今回はいただいたご意見を基に、より目標に向かって近づけるよう計画の見直しを行いまして、文章の文言の修正をいたしましたので、これについてこちらからご説明申し上げまして、また改めまして、皆様からご意見を頂戴したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

皆様方には引き続きご苦勞をおかけすることになりますけれども、委員の皆様方と私たちがこういう協議をすることで、琵琶湖博物館にさらに人々が集い、学び、発信する、そういう場所として磨かれて、地域に役立つ博物館になっていくというふうに確信しております。引き続きお力添えをお願いしたいと思っております。

以上、開会のご挨拶とさせていただきますけれども、本日もよろしくお願いいたします。

なお、お手元に「研究報告書35号」があり、それは私が作ったんですけれども、ちょっとお持ち帰りになるには重たいと思いますので、ぜひという方以外はそこに置いておいてもらって一向に構いません。ちらちらと見ていただいて、置いておいてください。

以上です。ありがとうございました。

○司会：それでは、会議に入ります前に、今回、第14期協議会という新しい体制になりましたので、改めまして、委員の皆様のご紹介をさせていただきたいと思えます。

今期からは委員総数が13名となっておりますけれども、そのうち11名の方は引き続きお願いしております。新たに2名の方にご就任いただいております。

それでは、お手元に名簿があるかと思えますけれども、名簿の順にお名前のみ、ご紹介させていただきたいと思えます。

#### <委員紹介および事務局紹介>

○司会：それでは、よろしくお願いいたします。

本日の協議会の定足数につきましては、条例の規定によりまして、13名中10名の出席ということでございますので、会議が成立しているということになります。ご報告いたします。

それから、お手元の資料の確認でございますけれども、一番上に本日の次第、それと名簿と座席図がございます。

資料といたしましては、いずれもとじておりますけれども、左肩に資料1、資料2、資料3というのと、横長で左肩に資料4と書いた資料がございます。おそろいでしょうか。もし不足がございましたら、お申しつけください。

## 2 会長・副会長の選出について

○司会：本来ですと、会長に議事の進行のほうをお譲りするところでございますけれども、今期14期の最初の会議でございますので、会長が決まりますまで、事務局のほうでこのまま進行を続けさせていただきます。

議題の2番、会長・副会長の選出のところでございますけれども、条例8条では、「会長・副会長は委員の互選により定める」と記されておりますが、いかがさせていただきますでしょうか。

○委員：事務局のほうから、何かご提案などございますでしょうか。

○司会：今、事務局のほうからというお声がございましたけれども、事務局から提案させていただきますてよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○司会：ありがとうございます。

それでは、皆様のご同意をいただきましたので、事務局から提案させていただきたいと思います。

事務局といたしましては、会長には、博物館の運営に造詣が深い学識経験者で、研究を含めて当館の活動にお詳しい村上委員にお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○司会：ありがとうございます。

それでは、皆様のご同意をいただきましたので、会長には村上委員にお願いしたいと思います。

なお、副会長は村上会長からご指名いただくということでよろしいでしょうか。

○会長：ご指名に預かりました村上です。よろしく願いいたします。

副会長の指名をとということで、私はまだ2期目に入ったところで経験も浅いので、博物館の運営に造詣の深い方をとということで、博物館学会長、本日、ご欠席ではありますが、布谷さんに副会長を指名したいと考えますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○司会：それでは、ただいまご指名いただきました布谷さんに副会長のほうをお願いするというので、この会の運営をお願いしたいと思います。それでは、村上委員、会長席のほうへお願いいたします。以後の議事は村上会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

○会長：このたび会長を拝命しました村上です。まだ経験は浅い2期目の委員ですので、皆様方のご助力をいただきながら、務めてまいりたいと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

### 3 議 題

#### (1) 滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく 令和3年度事業の内部評価と外部評価について

○会長：それでは、早速、議事に入ってまいりたいと思います。

3、議題の1つ目、「滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく令和3年度事業の内部評価と外部評価について」、これは事業目標ごとに検討を進めていくことになるかと思えます。

まずは、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局：本日の議題は、琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく令和3年度から5年間の事業計画ということで、2021年度からこの計画を始めております。

中長期基本計画については、10年間の計画を立てておりますけれども、当面5年間の計画ということで、2021年から行っております。

中長期基本計画に書かれていることは、琵琶湖博物館がどういうことを目指しているのか、社会に対して琵琶湖博物館がどういう関わり合いを持っていくのかというようなことが書かれています。この目標に向かって行っていくわけですが、この目標に向かってどういう事業展開をしていくのかというのが当面5年間の事業計画ということで、現在、進めているところです。

館長からの説明にもありましたとおり、皆様に2021年度の事業について、外部で評価したものに対して、外部評価というような形でいろいろご意見をいただきました。今回は、これら内部評価と外部評価を合わせて、5年間の計画の見直しをしたものを皆様に見ていただいているというところです。

皆様にお配りしている資料1が、5年間のそれぞれの事業目標の計画ということで、見直したものになっています。

この中を見ていただければ、ちょっと見にくい文字列になっているんですけども、以前の計画とどの部分が変わったのかというようなことを分かりやすくするために、消したところは二重線にして、新しく付け足した部分をゴシック体で示させていただいております。

これを今後どういうふうに進めていくかというのが、この図の一番左にある「第三次中長期基本計画」という冊子の内容が基になっています。この中では6つの事業目標に分けて、これらを実現することによって、10年後の社会に向けて琵琶湖博物館がやっていく目標が書かれています。

その6つの事業目標を受けて、それぞれの事業目標ごとに2つないし3つの重点事業というものを計画しています。今回また協議いただくものについては、それぞれの重点事業の5年間の計画というものを見直しております。

これまで行ったこととしては、この5年間の事業計画について検討を終了すると、その年度の事業について内部で評価いたしました。それを今年度は7月に協議会をさせていただきましたが、そのときにいろいろご意見をいただいた後、外部評価をしていただきました。

それら内部評価と外部評価を受けた形で、現在、我々がどこまで進んでいるのかというようなことと、今後、社会状況がどういうふうになっていくのかというようなことを考えながら、計画の見直しをいたしました。それが資料1に当たるものです。

ちなみに、資料2は内部評価の文言で、資料3が外部評価という形で資料をつけさせていただいております。この見直した計画を本日の協議会で提出いたしました。

今回、その見直した部分について、どういうふうにして見直したのかというようなことをそれぞれの事業ごとに説明させていただきますので、それぞれの事業についてご議論いただければ、ありがたいと思っています。

琵琶湖博物館が目指しているものというのは、「多くの人々が琵琶湖とともに生きることの価値を感じることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく」というようなことを目指して、それぞれの事業を行っていくという流れになっています。

見直す内容については、内部評価、我々がどういうことをできたのか、できていなかったのかということと、皆様からいただいた外部評価のご意見と、今後の計画として我々ができること、頑張れることというようなことを見通しまして、現在の博物館状況——例えば人的なものであるとか、予算的なものであるとか、社会状況であるとか、こういったようなことを考えて、各事業目標について担当が見直したというようなことです。

本日の協議会では、この事業目標1、2、3、4、5、6という6つの事業目標がありますので、それら事業目標ごとに担当から説明させていただきまして、その後、それぞれの事業目標ごとにご議論、ご意見をいただきたいというふうに考えております。

ここまで説明はよろしいでしょうか。

それでは、事業目標1から順番に進めさせていただきたいと思いますので、研究部長、よろしくをお願いします。

○事務局（研究部）：事業目標1に関しては、1、2、3とも修正をしております。

事業目標の1-1につきましては、内部評価のところで、まだ半分しかできていないというようなことを言っていたり、それから内部でこれでいいんだろうかという疑問が出ているということをおっしゃいました。結局、どういう問題点があったかというところ、事業目標1-1に関しては、研究をします、研究の報告が出ますということしか書いてなくて、これでいいんだろうかというところがあったので、根本的な見直しということを考えているという形です。

内部評価のところにありますように、事業目標から重ねて10年後、我々が研究した結果、世の中がどうなっていたらいいんだろうかということを考えて、琵琶湖やその周りの暮らしの価値とか研究活動を地域の方に行っていく。それから、琵琶湖が世界中の研究家の注目の的となり、研究プロジェクトが次々に生まれているという状況を想定いたしました。

これに基づいて、いろいろ検討してきたわけなんですけど、そうしますと、事業目標1-1の5年間で掲げている基盤Bのところに関して言えば、古代湖としての魅力が世界中に広まることを目指すものでありますし、それから総合研究は150年、一体私た

ちは何を経験したんだろうかということをもとめることに関しては、琵琶湖やその周りの暮らしの価値を発見するための種まきであろうというふうに考えまして、改めて向こう5年間については、これを種まきとして広げていくということでまとめております。

その中で総合研究については、なかなか遅れているという話だったんですが、延長が決まりましたので、それに合わせて、少し後ろのほうにずらしております。

次の総合研究の立ち上げを並行して検討していくわけなんですけれども、その中では外部評価とかでいただいていた地域の方がもっと関わられるような研究を想定してほしいということがありましたので、そういったことも勘案しながら進めていくことになろうかと思えます。

2番目ですが、重点事業の1-2ですが、これは単純に1年間早く進んでおりますので、それに伴って組み替えをしております。例えば、「J-stage」が2022年公開の予定が、2021年から始まりましたので、これは進めているということで、次の琵琶湖の魅力に関して伝えるコンテンツを考えていくというのを今年はやっております。その中で、大体この辺でいこうというのが2つもう出てきておりますので、そこを2023年と2024年から開始するというように考えております。

論文解説の掲載開始、これは何かといいますと、私たちが学術論文として発表するのは、これは外部評価の指摘にもあったんですが、難し過ぎるということがありましたので、これを一般の方々に分かりやすく伝える工程表を作っていこうということになりました。これも先ほどの地域の人たちが魅力発見のために活動していくという事の種まきになろうかというふうに考えます。

琵琶湖に関する紹介ページの掲載開始というのは、その名前のおりなんですけれども、こういったことを念頭に置いております。

それから、1-3ですが、研究の質を高める環境の整備並びに研究の活性化ということで、これに関しましては、機器の整備というのが果たして事業なんだろうかという質問がございましたけれども、目標として研究を活性化することということを念頭に置いて書いております。

それから、2022年のところの達成する目標で、備品調達方法のリストアップという、役に立つのか立たないのかよく分からないような、リストアップしただけでは駄目だというのがありますが、そういうのが実は今年に入ってから、いろいろ具体的な動



きが出てきましたので、そちらのほうを進めることのほうに反映しております。

例えば、国のほうからDX事業、デジタルトランスフォーメーションについて、予算が下りるといった話が来ましたので、これに積極的にエントリーしております。それから、伊藤忠商事さんから博物館と連携するという申出をいただきましたので、それに合わせて、希少生物の保全のための施設整備などを進めていこうというようなことを書いております。

2023、2024に関しましては、こういったことを進めながら、だんだん活性化していくというのを目標としたいと思っております。

また、外部評価のところでご指摘をいただきましたが、せっかくいい機会があるんだから、みんなで使えるようにしてほしいというので、実は当館、そういう制度は今までにもあったんですけども、それをより積極的に活用して、いろんな人が整備した機械を使って、研究できるようにしたいというふうに考えています。

研究部の計画については、以上です。

○事務局：どうもありがとうございます。では、事業目標ごとの議論とご意見を伺いたいと思いますので、会長、よろしく願いいたします。

○会長：それでは、今ご説明がありました事業目標1「琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介」のところ、内部評価、外部評価の内容も踏まえて、事業目標を設定くださっていますが、今説明のありました事業目標1につきまして、質問等よろしく願いいたします。

○委員：外部評価の意見を踏まえて修正していただいたことについて、大変感謝をしております。ありがとうございます。

昨日のNHKのニュースで、大阪万博で、滋賀県のパビリオンに、やはり琵琶湖がメインの、私、テレビの放送だけの情報なんですけど、博物館の床面に琵琶湖の写真が貼ってある、そういったイメージの映像が流れていたんですけども、やはり世界に誇れる琵琶湖の環境や文化を、研究あるいはいろんなそういうデータを蓄積されている博物館が、例えば今具体的な策とかがあるのであれば、少し入れられてもいいのかなと思います。これは2022ですね。もしあればということで、ちょっとお尋ねしたいなと思います。

○会長：事務局、回答をお願いいたします。

○環境政策課長：現在、万博に向けて滋賀県のパビリオン、関西広域連合の中で滋賀県ブ

ースとして、今企画されております。総合企画部の企画調整課で今、案を練っているところで、業者さんと一緒にプロポーザル方式で中身を詰めていくという段階でございます。

現在、会議で、子どもたちが楽しめるパビリオンにしたい、出展したいということでしたので、私もその中で、琵琶湖博物館は子どもたちを楽しませるノウハウはいっぱい持っていますので、ぜひ協力させてくれということを申し上げまして、そのときのコメントは、できるだけ学術的なものにならないようにしたいとは思っているということは一言あったんですけども、ぜひ一緒にということは確認できていますので、その中に埋め込んでいきたいと思っております。以上でございます。

○会長：ありがとうございます。では、ほかにご質問、ご意見等いかがでしょうか。

では、私からも一つお尋ねしたいのが、「進めること」のところで、DX事業という新しい言葉が出てきたなと思って拝見していたんですけども、デジタルトランスフォーメーションということで、参入挑戦というふうに書いてありますが、具体的にどういった内容で、どういった方式を想定しておられるかというあたりをお聞かせいただけますでしょうか。

○事務局：デジタルトランスフォーメーション事業、これはいろいろな分野があるんですけども、最先端の電子移動技術を使って、いろいろ情報発信をする能力、あるいはやり取りができるようにするということでもあります。今、これは研究部だけではないんですけども、例えば資料の見せ方を新しくしていくとか、そういった方面、あるいは例えばGIS（地理情報システム）という、地図上にいろいろマップを重ねていくことによって、新しく見えてくるという仕組みですけども、そういったものの整備を進めるとか、あるいはうまくいったら、ドローンを飛ばしたいとか、そういったようなことで進めていこうとする考え方です。実際、そういったところに予算を上げてということに挑戦しているところであります。

○会長：ありがとうございます。

ほかにご質問、ご意見等は。委員の皆様、いかがでしょうか。

○委員：まだまとまっていはいないんですけども、外部評価の中で1-1、住民が主体となって行動することで地域での活動がなされていくため、そのための種まきが重要だという表現がされております。私も、この琵琶湖博物館の準備室時代に、生き物調査に参

加させていただいて、その種まきのおかげで、博物館の力、地域のグリーンネットを発展させて、今も活動させていただいております。そのとき、私はまだ小学生を抱えて、とても若かったんですけれども、やっぱり若い人への種まきというのがとても大事だと思っております。また、当時、調査の時、マスコミを大いに利用されて、新聞等で募集をかけたとか、そういうこともあったので、参加者が増えていったかと思っております。今後、博物館の参加型調査にしても、もっと広く、今、フィールドレポーターの方々がおられますけれども、そこを核としてでも、とにかく広めていくことが大事ではないかと思っております。私たちが体験した中で、やはり一旦調査をすると、すごくそれに対する愛着というのが湧きますので、その地域地域でそれを広める人がまた増えていったということも私は体験しておりますので、そういうことも含めて、種まきをどんどんしていただきたいと思っております。NHKのテレビにしても、琵琶湖博物館のことをもっとPRをお願いしたいなと思っております。よろしく願いいたします。

○会長：ありがとうございます。

事務局から、今のご意見の回答やコメントなどありますでしょうか。

○事務局：ありがとうございます。今おっしゃっていただいたようなことをもっともっと円滑に進めていくんですけれども、先ほどのDXも具体化されてくるんじゃないかなというふうに考えていますし、本当に面と向かって積極的なアピールもしていきたいというふうに思っております。

○会長：ありがとうございます。

館長からもお願いいたします。

○館長：私はお答えするんじゃないんですけれども、委員は種まきするいい方法をいろいろご存じじゃないかと思うので、ちょっと知恵を教えていただければありがたいです。

○委員：私が体験したことしか分からないですけれども。

○館長：ぜひお願いします。

○委員：ありがとうございます。本当にサイエンスに素人だった私は、琵琶湖博物館に育てていただいたというところがすごく大きく、今、私がここにいるのもそのおかげだなということをとっても感謝しております。

今も観察をずっと続けて34年になりますけれども、発見する喜び、全部琵琶湖博物館

の学芸員の先生に教えていただきました。ありがとうございました。

○会長：ありがとうございます。それでは、事業目標1については、以上でよろしいでしょうか。では、次に事業目標2のほうに入ってまいります。「資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局：細部はあまり説明しませんけれども、事業目標ですね。貴重な標本・資料を将来にわたって人々が利用できるよう、適切な整備・保管を進めるとともに、ICTを活用した利用方法の開発により、琵琶湖博物館の知的資源を、「だれでも・どこでも・いつでも」使えるようにするということが、これはもちろん変わっておりません。変わっていないんですが、実は具体的な実行段階のところ、これを見ていただくと分かるように、大分書き直しが進んでいるんですね。

こうなった背景は大きく2つあります。1つは予算削減です。実は今年、直そうとしていた収蔵庫の空調関係の施設などは、実は蓋を開けてみましたら、予算がものすごく引き上げられていて、直さなかったわけですね。それから、次年度以降についても、予算をものすごく削れという指示が来たりして、以前思ったように、5年間できっちり整備し直そうというのがどうも予算的に持たないぞということになったわけです。

そこで、むしろこれから予算を削られて少なくなると、細かい修繕をきっちりやって耐え忍ぶという方向で、ちょっとトーンダウンしているのが2-1の標本・資料の管理体制の強化のところなんです。

具体的には、空調及び熱源設備の適切な維持管理及び消耗品の定期的かつ適切な更新がなされているということをしつこく書いているんですけども、実はこれは裏返して言えば、これはあまりできていないということなんですね。例えば、空調機のベルトが切れかかっているのがいっぱいあったり、そういうのをどんどん直していかないと、今ある施設も使えなくなるという状況になっているということで、こういったものをこまめに直していくと。それでどうにか収蔵庫環境が悪化しないように耐え忍ぶというのが当面の方針になっております。もちろん、予算の申請はしていきますけれども、それでトーンダウンになっているわけですね。

2-2のところなんです。実はもう一つの変った要因というのが、先ほどから話に出ていますDX事業なんですね。実はDXの予算が去年の夏、河野デジタル相が言い始めて、DXの予算が県から提案をあげるようにとの指示があったというのがあります。

それから、もう一つは、デジタル田園都市国家構想なるものもありまして、その補助金が新たにレコメンドすることもあるとあって、そこで逆に、ICTを活用した利用方法の開発という部分については、かなり大幅に強化する方向で話を進めているわけです。

具体的には、データベースの整備をするところに、ウェブ図鑑を連動するというものを入れております。このウェブ図鑑の連動なんですけれども、ウェブ図鑑というのはもちろん、いろんな生物についての図鑑的な整備というのがあるんですが、それ以外に3Dコンテンツですね。つまり、剥製とか、あるいは生き物でなく、土器とか民具みたいなものをいろんな方向からたくさん写真を撮りまして、それをAIに透過させて、360度の方向からでも回して見られるような、そういうコンテンツを整備していくというのが一つの方針として上がってきてまして、予算が通れば、これを大々的に押し出していくということを考えているわけです。

それから、2-3です。この「だれでも・どこでも・いつでも」使える博物館というところについても実は同じような形で、3Dコンテンツを含むということを強調して書き直しているわけです。

それで、これは実は必ずしも資料活用係の仕事ばかりではなくて、先ほどお話がありましたGIS（地理情報システム）を使ったウェブコンテンツ——今、ちょうど議論をしているところなんですけれども、例えばどこか自分がいるところの周辺で、この時期に見られる鳥は何かなどというふうにやって情報を入れますと、ここ数十年でその辺で目撃された情報がぱっと出てくるんです。

それで、ここに例えばこういう鳥がいるというのがあって、そこをクリックしますと、これは電子図鑑になってまして、今度はその鳥の紹介が分かるようになっていると。さらに、ここから3Dコンテンツとか、博物館に行ったら、どこに一体これはいるんだろうかみたいなどころまでつながるようなシステムというのを、実はちょうど今日、思いついたことなんですけれども、実はこういう議論が今まさに行われているところです。どう変わっていくかは分からないんですけれども、そのDXの範囲の中でできることで、なるべく楽しく、資料情報を発信できるものを目指していこうと考えているところです。

説明になっているのか、なっていないのか分かりませんが、以上です。

○事務局：では、事業目標2の説明は以上ですので、ご議論をお願いいたします。

○会長：ご意見やご質問等ありましたら、委員の皆様、お願いいたします。

○委員：資料のことに関しては、我々、本当に素人なので、詳しく分からないんですけども、資料と予算の話が先ほどあったかと思っています。また本日は県庁の方も来られているという中で、当然、我々委員としても、皆様方もそうでしょうけれども、一番あってはいけないのは、例えば予算取りができなかったから、何らかの資料がいわゆる劣化して使い物にならなかったみたいな、そういう具体的なところ、予算も限られているのは存じていますので、そこらのせめぎ合いのところ、やっぱり琵琶湖も含めて、琵琶湖博物館がしっかり未来にという、そのキーワードの中で、当然予算取りも含めて、いろいろ頑張っていたかと思うんですけども、少し我々レベルでも分かるような事例として、このまま例えば空調が整わなかったら、こんなことが起きてしまうとか、そういうことをもう少し我々素人でも分かるような事例をいただいて、やっぱりその切迫度合いというか、本当に失ってしまうんですよというところと予算というのが、やっぱりちゃんとつながってほしいなという、そんな願いでいるので、だからあってはいけないことになってはいけない。予算ができなかったから、貴重な資料を失うみたいなことにならないでほしいんですけども、まだそれでも猶予期間も含めてあるのかとか、ないのかとか、少しその辺の分かりやすい事例を挙げていただけたらと思います。

○事務局：6番目の目標が、老朽化した施設ということで、実のところ、計画とかがそれほど変えられていないんですけども、その中でも委員の皆さんから予算の話であるとか、適正なというふうなお話をいただいているところです。ただ、今ちょっとご質問もありましたし、私も説明の中でちょっとご説明させていただこうかと思ったんですが、県全体でやはりお金のないという状況がある事実もあります。ですので、博物館だけというわけではないんですけども、県全体で今後4年間、一定削減をするという目標を立てて、それに各部局とも、当然博物館も含まれておりますが、削減をするという一定の条件が入っております。その中で、博物館としてどれを選んでやっていくかということの中で、従前でしたらできていた部分が、どこかを削らないといけないという形で、先ほどもお話があったかと思います。今の空調はまたお話ししますが、全体としては決して博物館だけというわけではございませんで、県全体の中でなっているというのがまず一つでございます。

6番目の施設のところにつきましては、皆さんから、外の小川のところとか、いろい

ろ直したらいいんじゃないか、大切な資料を未来につなげるために、資料がカビたり、傷んだりすることのないようにというようなご意見等も確かにいただいております、限られた予算の中で優先順位をつけながら、その辺はまた考えていければと考えております。

○事務局：具体的にどういうことが起こっているかという一つの例として、実はこのところ、夏から秋にかけて湿度がコントロールできなくなってきていまして、除湿器を収蔵庫の中に入れて、それを回して下げていると。その水替えのために、1日1回とか、2日に1回とか、出てきた水をどんどん捨てにいけないといけないという事態になっているというのがまず一つあります。

それから、逆に季節によって、湿度が全くコントロールできなくなって、温度が下がってしまうことがあります。これも実はそういうことがあるたびに、いろいろなことが分かってくるんですね。それで実は、チェックするための計測器のほうの異常というのもありまして、1時間ぐらい下がっても、1時間か2時間で元に戻るというのがあったりするんですけども、そういう形で非常に不安定な状態になっているというのが一つあります。温度についても時々ちゃんと設定したとおりになってくれないことがありまして、調べてみると、大体温水配管、冷水配管の異常が起こっている。その都度直していつているんですけども、だんだんその頻度が上がってきているという状態です。ですから、こういったものをどうにかして乗り切らないといけないというのが現在の課題になっているわけです。

○館長：例えば、温度が調整できないと、どれぐらいで何が起こるんですか。

○事務局：温度・湿度が調整できないときに、どのぐらい資料にダメージが出るかというのは、資料によって違うんですけども、物によっては、例えば木製の民具なんかは、湿度の変動があまり大きいと、ひび割れが起きたり、そういうことが起こってきますし、それからあとは、実は今問題になっているのが図書なんですね。図書室の除湿が全くできなくなって、冬に室温が30何%ぐらいまで下がっていると。これが続くと、やっぱり図書の劣化は速いとか、実はこういったことが起こっております。事業部長から追加をお願いします。

○事務局（事業部）：すみません、追加です。これからお話しすることは、決して脅して言っていることではないんですけども、先ほど言ったように、湿度が変わりますと、

やっぱりカビが発生します。大切な資料なんですけれども、カビだらけになるというような事例が、実は数年前に起こったりしております。それを特に当館では国登録有形民俗文化材の琵琶湖の漁具等も収蔵しておりますけれども、そこにカビが生えるということになると、大変なことになる。そういったものを抱えているというのが一つと、あとやはりカビが生えると虫が発生します。チャタテムシという虫なんですけれども、それが食い荒らすというようなことだと、IPMといって、掃除を徹底して虫を防いでいるというところではございますけれども、やはりそれにも人的、あるいは資金的なことたくさん必要になってくるので、大変困っています。カビ、あるいは水漏れも含めて、資料に影響を及ぼすということが、今日明日というぐらいにせっぱ詰まっていると。

もう一つは、生体の生き物、例えば魚とかを飼っておりますけれども、温・湿度の関係でいくと、温度調整ができないと、今飼っている魚が死んでしまう。そういったことを日々危機に感じながらやっているというところなんです。その辺は先ほどありましたように、県全体の予算の中で、いかにというところなので、今はスタッフ全員一丸となって、何とかカバーしているというところがございます。

○委員：もう一つ、前にもちょっと申し上げましたが、私、実は図書館のほうの協議もやっていて、この前も県立図書館の方とちょっと話す機会があって、やっぱり県立図書館の中では、いろんな公文書も含めて、それは本当に財産だと。その徹底管理というのは、本当に図書館のあるなしを左右するようなレベルなので、そこは本当に空調管理も含めて、図書館なんかは最優先課題として、やっぱりそれは予算計上も含めて取り組んでいくんですというようなお話をいただいていたので、私は、琵琶湖博物館もそれに匹敵するだろうなと思っていますので、なかなか難しい問題もあるでしょうけれども、やっぱり本当に貴重なものは失ってはいけないというのは、多分、皆さんの願いでしょうから、そうならないための予算取りも含めて、県のほうの方でも予算を左右する方々、議員さんも含めてですけども、やっぱりその辺の重要性を分かってもらって、最優先課題として取り組んでほしいなと思います。

○会長：委員、ありがとうございます。博物館の収蔵庫の保全と資料の保全というのは、活動の根幹に関わってくる大事なことかと思っておりますので、関連するご質問やご意見などほかにありましたら、委員の方からお願いできればと思います。

では、2と3を含めて、事業目標2について全般的なあたり、ほかのご質問やご意見、



お願いいたします。

○委員：今の神経をとがらす質問の話とちょっとかぶってしまうんですけども、データベースを整えるということで、アーカイブを作っていかれると思うんですけども、そのデータベースのことが、収蔵品データベースというふうに書かれているんです。さっき言われましたが、例えばこの鳥をクリックしたときに、県内、ここに行ったら見られるよみたいなことのデータベースが整っていくのが目標だということだったんですけども、収蔵品だけでどのぐらいのデータがあるのか。例えば、県内にいろんな団体さんがおられるので、データをちゃんと取っておられたりとか、研究しておられるところもたくさんあると思うんですけども、そういう民間の人のデータの根拠と言われると、物すごい危ういところがあるかもしれないんですけども、そういうのを集めたりとかというのはされていくんですか。

○事務局：すみません、学芸員の立場として、鳥の担当の学芸員をしております、DX事業のほうでも、今おっしゃっていただいたような形で、例えば生き物の分布情報ということで、鳥の分布情報なども今回、データベースに乗せていって、収蔵資料だけではなくて、そういった皆さんが記録されている分布情報というのを入れていって、生息マップのようなものを作れないかなというふうに思っているところです。結構全国的にも今、そういう参加型で、皆さん、生き物の記録をウェブ上で入力して、そういったマップを作るといった取組は随分たくさんほかのところでもあるんですけども、皆さん、誰でもとなってしまうと、今度は正確に生き物の名前を同定できていなくて、間違った情報が入ってしまったというので、精度が落ちてしまうということがどうしても出てくるんですね。膨大なデータがあれば、それもある程度カバーできる部分はあるかなと思うんですが、今回、私たちが考えていますのは、まずはそういったある程度信頼性の置ける情報、論文とか報告書で公開されているデータと、あとは今おっしゃっていただいた、いろいろ活動している団体ですね。例えば鳥ですと、野鳥の会の方の例えば探鳥会のデータとか、皆さん、記録されているデータでしたら、そういった同定の精度は高いと思いますので、そういった外部の方々のご協力も得ながら、信頼度の高いデータベースを作って、それを皆さんに見ていただけるようなものを、今回の事業で作れないかと思っているところです。ありがとうございます。

○会長：よろしいですか。

○事務局：GIS関係について、電子図鑑の連携ということについては、今のが一つの例になります。ほかにも例えば魚だったりとか、両生類・爬虫類だったりとか、ニーズの大きいほうから順番にやっっていこうということは考えているわけなんですけれども、それ以外に実は、資料そのものの情報をより細かく遺すというのもありまして、特に今、考古分野で考えているのは、お宝図鑑というのを作ろうと思っっているんです。つまりそれは、うちのデータベースに登録されている資料なんですけれども、それをいろんな向きから写真を撮って、それを3Dのコンテンツをデータベースに連動させて表現していきこうと。そういう形でデータベースの整備でもあるんだけど、それは地理情報を活用できるような方向へ持っっていこうという、こちらの動き方もしていきこうとということです。

ほかにも魚の骨格をCTスキャンとか、X線、レントゲンみたいなものですが、骨格の3D標本を作ろうかということも考えています。これもデータベース連動に入ります。

○会長：ありがとうございます。いろいろ事例をお示しいただいて、データベースの具体的な内容がイメージできるようになりました。他にご意見、ご質問等いかがでしょうか。

それでは、事業目標3「みんなで学びあう博物館へ」の検討に進みたいと思います。

事務局から説明をお願いいたします。

○事務局：事業目標3「みんなで学びあう博物館へ」、簡単に説明させていただきます。

全部で3つのカテゴリーを持っっておりまして、1つ目につきましては、幅広いニーズに応える交流事業の充実につきましましては、見直したところ、ポイントの一つとしては、これは2023年頃のところからなんですけれども、特にこの部分につきましては、主に外部の団体、この外部の団体といいますのが、琵琶湖博物館と関連するような地域の住民によりつくられた団体、この団体が主体となって実施するようなものを企画しながらしていきたいと考えておりまして、これまでイベントにつきましましては、主に学芸職員が主担となっっておりまして、今後、このような地域団体と、はしかけさんを含めてイベントを実施していきたいと考えておりまして、これはこの人たちと一緒に博物館のイベントを支えるような実施者となるようなことを進めようとしております。

次に、3-2の出会いの場の創出ということなんですけど、見直したところなんですけれども、現在、交流事業の一つは、はしかけ制度というのがあります。そして、交流センターを持っいらっしゃる地域団体の登録制度というのがありまして、そのノウハウを生かしながらと、あとほかの博物館を持っっているそのような連携の仕組みのことも含め

て、今後も強化していきたいという方向で進めようとしております。

ここで中心的なポイントとしましては、その中で例えば、毎年定例となっている「びわ博フェス」というイベントというのがありまして、これまでには博物館がメインとなり、あるいは博物館学芸職員が主担となったり、はしかけさんが参加する側、あるいはワークショップなど、ポスター展示が行われたりもするという事なんですけれども、今後、地域団体、あるいは企業さんやはしかけさんなど、要は参加者と実施者も視野に入れながら、参画していただけたらということを中心に考えようとしております。

そして、3-3、「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学習の支援のところでは、ここで見直したところは、教員自身の体験の機会がこれまでは非常に少ないという状況で、このような課題を改善するためには、今後、教員の人たちが博物館に来ていただきまして、これらの人たちが自分自身が体験を重視した形で、自分たちが学習のプログラムを作っていくという方向で考えております。

博物館側としては、受講者に対してアドバイスなり、あるいは体験型のようなもの、例えば博物館が持っている標本や各学芸員が持っている専門性を生かしながら、いわゆる琵琶湖博物館の資源やノウハウを生かして、プログラム作りができたかと考えておりまして、そのようなことを進めようとしております。

もう一点、進め具合なんですけれども、館内に在籍している教員からの助言だけではなくて、学芸員の専門性を生かしながら、今後のプログラム作りを考えていくところもあります。私のところからは以上です。ありがとうございます。

○事務局：事業目標3について、事務局のほうから説明させていただきましたので、よろしくお願いたします。

○会長：それでは、今の事業目標3につきまして、ご意見、ご質問等ありましたら、お願いたします。

○委員：教師、教員、いろいろあるんですけれども、対象の先生方というのは、やっぱり小学校ということですか。教員の対象は誰かなど。

○事務局：それは小中を中心に考えております。高校の先生方がまだ少ないんですけれども、それも視野に入れてありますけれども、方向は小中高が中心となって実施しております。

○委員：希望者ということですか。理系の方が全般か。

○事務局：特にこの辺は希望をいただくというのはありがたいんですけども、それ以外にも博物館のほうでは定期的には実施しております。それと教員研修というのもありまして、例えば本年度の実績なんですけれども、フローティング実施連携の教員研修を2回実施して、希望じゃなくても、このようなプログラムを提供しております、ご参加くださいねというような呼びかけの姿勢も持っておりますが、このようなやり方をしております。

○委員：ありがとうございます。

○会長：フローティングに関係してということは、小学校5年生の先生が中心になるんでしょうか。今、小中を念頭にというふうにおっしゃいましたが、そのあたりも少し補足をお願いします。

○事務局（事業部）：フローティングのほうはご存じのとおり、5年生が対象ですので、そのとき、フローティングスクールの事務局のほうから要望があった場合に、こちらから出向いて行って、一緒に対応する学校の先生たちと研修をしたり、そういったことをやったりしております。

それから、学校の初任者研修と3年目研修というのがありまして、それは県の教育センターが主催なんですけれども、共催で当館のほうに来ていただいて、博物館をより利用していただけるように、そういったプログラムと一緒に作っていくという、そういう研修を行っております。

○会長：委員、お願いします。

○委員：以前にも申し上げたんですけども、5年生はフローティングスクールだけというか、フローティングスクールの中で琵琶湖学習をしております。また、最近はタブレットを使っているような情報が入るようになってきているので、以前に比べて子どもたちは、琵琶湖のことを知る機会が非常に増えていると思います。

でも、実際に私は前回も申し上げたんですけども、琵琶湖博物館がすばらしいリニューアルをしましたので、今日も県の方が来られているということで、3年生が「今と昔のくらし」ということで、C展示室の富江家を利用したりするんですけども、やはり琵琶湖環境学習というのを、A展示、B展示、C展示全部網羅して、5年生の子どもたちに学んでほしいんですが、タブレットからでは得られない情報がいっぱいあります。今まで蓄積したデータがそこにいっぱい展示されていますし、学芸員の先生方の思いも

いっぱいそこに展示されておりますので、ぜひ5年生でも、3年生のときも来て、また5年生も琵琶湖博物館を利用するという、それが非常に理想的なんじゃないかということ、私、地域の子どもたちや学校とも関わっておりますので、そのように思います。

○事務局（事業部）：ありがとうございます。3年生はやっぱり、昔の暮らし学習ということで、当館のほうの富江家と、それから屋外にあります工房を使って、脱穀機を回したりとか、そういった体験をさせていただいております。あと、5年のフローティング、それからそれ以外の学年がどのぐらいかというのは、ちょっと今即答できないんですけども、年間を通じて、春の遠足の時期、あるいは秋の遠足の時期という形で、郊外学習で来ていただいているところではあります。

○会長：今の内容に関連して、ほかにご質問等よろしいでしょうか。

○委員：私、常盤小学校の校長をしているんですけども、常盤小学校は琵琶湖博物館のあるこの学区にある小学校なんです。以前、私が教諭として常盤小学校に6年ほどいたんですけども、その頃は春に、校内全ての子どもたちがそれぞれの家から、家の近くの集合場所に集まり、そこからこちらのほうまで歩いて来ると。1・3・5、2・4・6というふうに学年を分けて、ちょっと外で異学年交流をした後、琵琶湖博物館組と水生植物公園みずの森組に分かれて、ちょっと見学をさせてもらっていた、そんなふうなことをしていました。それこそ下物という一番近いところの子どもたちはいいんですけども、逆に離れているほうの子どもたちというふうになったら、4キロぐらいはあるのかなあ。結構な距離をそれこそ1時間からかけて来てたなあ、そんな記憶があります。ただ、そんな取組は残念ながら、校長として戻ってきたら、当然ないというふうなところで、心苦しい。学区にあるとはいえ、ここまで歩いて来ようと思ったら、やっぱり40分とか、それぐらいはどうしてもかかってしまうので、実際問題、歩いて来るといふふうなことは難しいなというのはすごく思っています。

こんなことは実現できるかどうかは分からないんですけども、県の事業でびわ湖ホールがありまして、「ホールの子」という事業があるんですね。あれも県下に広く募集をされて、バス代のかなりの部分を県が見てくれるというふうな形で、本校も何学年かをそこに行かせてもらっているというふうなことがあります。それだけの予算を多分、びわ湖ホールを所管している課が予算取りされているんだらうなと思うんですけども、それなりにたくさんの子どもたちが集まって、音楽を聞いて、学校としてのメリットと

いうのはそれに行きますと。でも、バス一日借りられるわけで、例えば午前びわ湖ホールに行ったら、午後から別のところへ校外学習ができる。でも、バス代というのはある程度県が見てくれるので、保護者負担がそんなにないと。そんなメリットも学校としてはあるなど。こんなことが琵琶湖博物館がリニューアルをして、そんなので予算取りができるのかどうか分からないんですけども、そんなふうなことがもしできたら、それはそれで県下の学校はすごく喜ぶのと違うかなと。要はここに来て学ぶというふうなことがスタートでというふうなことで、次につなげていけるのではないかなというふうなことを思ったりしています。こんなことができるかどうか分からないんですけども、こんなことがありますということで、ちょっと紹介させていただきました。

以上です。

○会長：今のご意見、事務局から回答やご意見などありますでしょうか。

○事務局：広報営業の関係で、今のようなお話も実は伺っておりまして、今は草津の常盤小学校さんですけども、湖北方面など、草津から遠方の小学校につきましては、ホールとの連携で、先ほどおっしゃったように、ホールのほうに午前中に行けば、午後に博物館に来られるというケースはたくさん増えております。その辺、今ちょっとこちらのほうに教員のOBがおりますが、そのことも含めて各学校にお邪魔したときに、そういう声を聞きながら、連携で来ていただけるとありがたいという話で、県の予算を使って、琵琶湖博物館も県立、びわ湖ホールもどちらも県立でございます。そういう形で併せて来ていただけるようお願いなり、連携を取っておりますので、そういう形で対応していければと思っております。

○会長：ありがとうございます。ほかに事業目標3に関して、ご質問、ご意見等。委員、お願いいたします。

○委員：失礼します。私も教員の立場で参加させていただいておりますので、この事業目標3については一言応援メッセージという意味合いで、発言させていただきます。

私、先ほどからお話を聞かせていただいている、小中学生を対象に、博物館が環境教育のプラットフォームになると。県内あるいは県外も含めて、子どもたちの学びが発達段階、縦のラインでつながっていったり、あるいは横のラインでつながっていったりするプラットフォームになっていくといいなど。既になっている、そういう存在であるというふうに思っておりますし、ぜひ応援をしていきたいなというふうに思っています。

思い返しますと、実は私、10年ほど前に県の教育委員会におりました。そのときに環境教育の研究協議会、毎年8月に悉皆研修で博物館のほうに集まっていたいて、教員が学ぶ機会を設けていました。今コロナで人数制限をしたり、あるいは行われていなかったりするのかなど、ちょっとその辺が分からないんですけども、私がおりました4年間はそこで博物館の方に博物館の研究の成果の一部分を発表していただいて、教員が学ぶ非常に有意義な場となっていました。

滋賀県はやはり教育の世界では、環境教育の先進県ということで有名です。それは今も根強く滋賀県以外の先生方にはそういう認識を持っていただいておりますので、学校現場も頑張っていないといけないというふうに思っておりますが、ぜひ博物館も学びのプラットフォームといいますか、県内いろんな地域があって、いろんな環境教育が行われておりますので、そういった教育の情報の集積もしていただけるといいのかなというようなことで、改めてプログラムを作っていくということも大事なんですけれども、そういったことも大事かなというふうに思っています。

もう一つ、国立教育政策研究所というのがあります。そこが教員向けの環境教育の指導資料というのを作っています。ホームページにも上がっているんですけども、幼稚園・小学校編と中学校編と出ています。ちょうど七、八年前に最新版を改訂しました。そこにも携わっていたんですけども、ぜひ環境教育先進県の滋賀県の実践を載せたいということで、東京のほうからお誘いをいただいて、幼稚園・小学校編でいきますと、当時、雄琴小学校の環境教育の実践事例を掲載していただきました。

雄琴小学校で当時は何をされていたかという、低学年の子どもたちが真冬にヨシ原の中に入って、環境に対して興味や関心、あるいはその不思議さを実感する教育をされていた。その事例を載せさせていただきました。子どもたちはヨシ原の中って真冬でもあったかいねと。それが例えば水鳥が卵を育てたりとかということにつなげていってという、子どもたちの環境に対する実感を伴った理解が進んでいくスタートだったなと思います。

これは一つの事例ですけども、滋賀県は環境教育に頑張っておりますので、また博物館とも連携してやっていけるような呼びかけを校長会でもしていけたらというふうに思っておりますので、ぜひ共に頑張っていけたらと思います。よろしく申し上げます。

○会長：ありがとうございます。今のご意見、ご回答やコメントなど事務局からよろしい

でしょうか。

○事務局（事業部）：貴重な情報をありがとうございます。実際、誰に、どうアクセスして、その辺のところを展開させていただいたらよろしいでしょうか。

○委員：私、中学校なんですけれども、科学部というのがまだ根強く残っている学校があるんです。毎年、科学研究発表大会というものが、これは全国規模であるものなんですけれども、その滋賀県大会が行われます。もちろんその前に、私、米原市ですけれども、米原市の発表会というものを経て、優秀な作品を県に上げているんですけれども、例えば科学研究は中学校段階になると、非常に専門性が高くなります。その際に、実際もう既に博物館に教員が連絡をして、どう分析したらいいかなど。何か分析する方法がないかなという問い合わせもしていると思うんですけれども、そういったことをもっと積極的にやっっていこうよという発信はできるかなというふうに思っています。

○会長：ありがとうございます。

○事務局：すみません、1つだけ。横から口を出しますけれども、実は数年前、2017年ぐらいから、琵琶湖梁山泊というのをつくってまして、はしかけのグループで、学校、主に中学校、高校ぐらいで、自由研究が好き過ぎて、もう先生が手に負えなくなったような子どもにこちらに集まってもらって、切磋琢磨してもらおうというグループをつくっています。コロナ禍で、それまで盛り上がったのが、しゅんとなってしまったんですけれども、まだ人はあふれていますので、もし、うちで手に負えない子がいるという話がありましたら、ぜひとも博物館に相談していただければありがたいと思います。

○事務局：コメントありがとうございます。プラットフォームのところなんですけれども、交流事業の中でも、今年、イベント的なことの一つとしては、「びわ博フェス」がありましたけれども、その中で高校生も発表してくださいまして、非常に反響がよかったということもありますので、そういう意味で今後も学校・団体を相手に、そのような博物館が中心となったプラットフォーム的な役割を何らかの形で実践的に実施していけたらなと思っております。先ほどおっしゃっていた中学校の方々の発表大会あるいは県大会なり、あるいは市の大会なり、そのことも含めて交流事業として今後も考えていきたいと思っております。どうもありがとうございます。

○会長：ありがとうございます。

○委員：1点、資料4の事業目標3の一番下なんですけれども、「深く学ぶ力」に基づく



琵琶湖「学種」となっておりますが、「学習」ですかね。誤字かもしれないので、ご訂正をお願いしたいです。

○事務局：ありがとうございます。

○委員：3-2のところ、利用者層の多様性や連携性を高めるということで、先ほどから若者、小中高とか、教員との連携みたいなお話があるんですけども、高齢の方とか、介護施設とか障害者福祉施設との連携みたいなこともお考えでしょうか。

といいますのは、今、SDGsで、誰一人も取りこぼさないみたいなことが世界的に言われていますので、世界に発信する博物館であるならば、私はよく分からないので、ご存じの方にお伺いしたいんですけども、例えば今の博物館で、若者もご高齢の方も一緒にご覧になっているけれども、もしかしたら、障害を持たれた方とかがもうちょっとゆっくり見たいなというようなところがあるんだったら、シニアデーとか、障害者の方にゆっくり見てもらえるような時間帯みたいなものがあると、特別な博物館みたいなことが起こり得るのかなというようなことをちょっと思ったので、若者への種まきは本当に重要だと思うんですけども、何か取りこぼされているというか、やっぱりご高齢の方も癒しであるとか、自然と触れ合ったりとかいうことを大切にされるようなことができると、多様性というところがもっと広がっていくのかなということをちょっと思いました。

実際に、今ちょっとそういうことが団体様のところで手がけておられるのであれば、ちょっと私の知識不足ではあるんですけども。

○会長：今のご意見につきまして、事務局から回答などありますでしょうか。

○事務局：ご意見ありがとうございます。学校中心の話になりながら、今言っていたいたようなご高齢の方、あるいは障害を持った方々とか、小さいお子さん、妊婦の方も含めてなんですけれども、そういった方々というのも博物館では広く来館いただいております。特にご高齢と言ったら変なんですけれども、無料になる年齢の方々は、お孫さんを連れて頻繁によく来ていただいているという状況ではあります。

今、ハッと思ったのは、シニアの方向けの時間帯、あるいは日を設けるとかという話があったんですけども、本当に一日の中でも、土日に限っては、この時間帯は家族が多いよねと。でも、この時間だったら、もっとゆっくり見られるしというようなこともありますので、そういったところをもう少し情報的に伝えるということも博物館として

提示しながら、自分に合ったいい時間帯を選んで来ていただくということを進められたらいいなというふうに思っております。

○委員：ありがとうございます。

○会長：ありがとうございます。では、事業目標3につきましては、よろしいでしょうか。

○委員：今年、久しぶりに「びわ博フェス」が開かれました。本当によかったと思っております。私も短い時間ではありましたが、少し見させていただいて、はしかけの皆さんが生き生きと活動されていて、参加されている方もすごく楽しそうに参加されていたので、今後、「びわ博フェス」が大阪自然史博物館のように大きく、いろんなつながりがある団体とか、いろんなつながりができていったらいいなとは思っていますけれども、今年久しぶりの「びわ博フェス」について、いわゆるはしかけの皆さんの手応えとか、そういったことはお聞きになっていますでしょうか。学芸員の先生からご覧になって、どんなふうに映っていますか。

○事務局：ありがとうございます。「びわ博フェス」に関しましては、今年2年ぶり、3年目に実施することができました。これまでの実施のところなんですけれども、はしかけ、フィールドレポーターがメインとなりまして、今年も同じように、フェスの活動発表と、あとはワークショップの形で、はしかけの方が支援していただきまして、それに関しましてはそれぞれのところにつきましては、こちらのほうで人数把握という意味で、アンケートなり、直接面と面と向かって、課題についてお聞き取りをしたりしております。ただワークショップの準備の最中、はしかけの方々が忙しく追われていて、その辺の面と面と向かっての聞き取りの時間があまり取れずということもあったんですけれども、今後、このような課題も含めて、また別のいろんな課題がありまして、それも工夫しながら、今後も改善していきたいと考えております。

あとは、今年のフェスの実施の仕方なんですけれども、これまでの実施の仕方とは違うところなんですけれども、それははしかけの25のグループとフィールドレポーターだけではなくて、企業と地域団体も視野に入れて実施することができました。あと、候補者の方も含めて、それとシンポジウムという形と交流会という形を生かしながら、いろんな方と会話をしながら、今後の博物館の利用の仕方について、皆さんと検討していくという形にしておりました。

外部団体の参加状況につきましても、アンケート、あるいは感想もいろいろ聞いてお

りまして、それを含めて今まとめているところなんですけれども、外部の団体の参加者は、今年のはしかけ以外なんですけれども、9団体の方々が来ていただきました。

データも含めて、今年の課題を来年に向けて改善していきたいと思っておりますので、またアドバイスをいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

○会長：ありがとうございます。事業目標3にはたくさんのご質問をいただいています。

ほかに。委員からお願いします。

○委員：すみません、内容について書かれた質問というよりは、この目標自体のことについて、ちょっと質問させていただけたらと思うんですけれども、最初のご説明だったり、質疑応答のところ、この目標自体の目的が、教師や教員の体験の機会をもっと多く提供していこうというところになってくるのかなと思って、お話を聞いていました。

最初の質疑応答のところ、これまでも教員向けの研修などやっていたというお話があったんですけれども、そことこの後の目標の違いの部分で、参加教員を増やしていく動きみたいなところで、何かあったら教えていただきたいなと思ったのと、そこの教員を増やしていく動きというよりは、内容をもっと充実させて、内容についてはいろいろとお話があったと思うんですけれども、そこのところをもっと充実させて、結果的に興味を持ってくれる教員が増えるとか、たくさんの教員の共有があって、もっと参加者が増えていくという、興味を持った教員が増えていくというような形の方向性を考えているのかというところを教えていただけたらと思います。

○会長：今のご質問につきまして、事務局から回答をお願いいたします。

○事務局：ありがとうございます。3-3について、学校連携というところの延長にあるというふうに思っているんですけれども、この先に見えるものは、やはり子どもたち。教員の方が体感・実践をすることによって、子どもたちに次に伝えながら、その子どもたちがまた博物館にという、そういう先を見通したようなことの展開を考えております。

それで、今言っていたように、研修の見直しと試験的实施という点で、いろいろアンケートも取りながら、今、本当にこのプログラムがいいのかも含めて検証しているところが実際のところ、その中の一つとして、フローティングスクールの延長もありながらなので、今までやってきた学校連携の枠組みの中で、教員に対してどういうことを博物館と一緒にプラットフォームをつくりながら、こういう体制をつくっていくのか、やり方をやっていくのかという、その作戦のほうですので、ちょっ

と今日のところは、そこまでしかお話しできないというところです。すみません、ありがとうございます。

○委員：ありがとうございます。

○館長：補足でも何でもありませんけれども、この中長期計画というのは、博物館がどうするかというよりも、地域全体がどのようにやっていったらいいのかということが大きな目標だと思うんですね。そういう中で、地域社会、社会全体とありますけれども、例えば交流活動とか環境教育というのは、地域にいろいろなグループがあって、活動されているわけですね。そういう方を呼んで、環境学習センターが中心になって、子どもたちを集めて発表会なんかをしていますけれども、そういう人たちがいますし、それから学校の子どもたちに対しては、先生方がたくさんいらっしゃるわけですし、そういうグループとか先生に対して、私たちが何かお手伝いしたり、働きかけたり、一緒にやったりしながら、社会全体でこの地域の面白さとか、どうやって守っていくとか、そういうことをしていけたらいいなと思っているんです。そういうことをするために、うちの博物館は一体何ができるのかなということで、やれることは限られていますけれども、一緒に考えながらやっていこうかなというのが目標です。

○会長：ありがとうございます。事業目標3につきまして、ほかに関連したご意見、ご質問等よろしいでしょうか。それでは、次の事業目標4「もっと使いやすい博物館へ」のほうの事業に入っていきたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局：事業目標4「もっと使いやすい博物館へ」ということで、展示に関する内容が多いもので、展示係長から説明いたします。

全体の取組を簡単に説明しておきますと、各事業として4-1、誰もが楽しみ学べる博物館展示への成長というのは、主に展示室で展示を見る際に解説補助ツールとして使うものについてです。現在、ポケット学芸員の導入ということでお配りしています資料にも書いてありますけれども、展示室の内容をより理解するためという事業です。

4-2のほうの「観る」展示から「観る+使う」展示への成長というのは、展示室で見えていただいた展示内容について、より深く知るための専門的な内容であったり、展示はできていないけれども、補うための内容であったりするものをインターネットを通じて取りにいて、使える情報を得るといった事業です。

4-3のほうは、社会の変化や研究成果を反映させた展示の成長ということで、展示

そのものを時代に合った形にして内容を更新していったり、展示の観覧状況や伝える手段を新しい道具などを使って更新していくという内容です。

このことについて、内部評価を委員の皆様に見ていただいた結果、外部評価としていろいろな意見をいただきましたけれども、その中で幾つかキーワードがございました。

一つは、展示室内のインターネット環境の整備をちゃんとしてくださいということ です。主にインターネットを使うというのが1と2では中心になっているからです。それと、より魅力的なコンテンツを増やしてくださいという評価をいただきました。

もう一つ、その効果はどうだったんですか、反応はどうだったんですかというご意見をいただきまして、ぜひアンケートなどを実施して、効果の検証をしてくださいという、そういうご意見をいただいております。今回、そのような外部評価も考慮して、中長期計画を若干変更いたしましたけれども、一つ一つもう少し詳しく説明いたします。

まず、4-1に関しては、現在、ポケット学芸員というプラットフォームを使って展示解説を行っているところです。正直なところ、リニューアル後に導入しておりましたびわ博ナビというプラットフォームが今年度末で使えなくなるということで、現在、ポケット学芸員に移行している最中なんですけれども、ちょうど権利の関係等で音声データなどがそのまま移行できなかったものですから、現在、ポケット学芸員というプラットフォームを使って、音声ガイドをもう一度作り直しているような状態です。

先日、日本語の音声ガイドのコンテンツをアップしたところでございます。このポケット学芸員というのは、当館のデータベースを扱っている会社と連携しているプラットフォームでして、機能としてはまだまだ音声データを上げるだけではなくて、ほかにもっと追加できる内容もありますので、今後はそういったものも含めて充実させていくということで、中長期計画としては音声ガイドとしての機能をまずきっちりとそろえて、そこから先に追加できる情報を検討して、計画をつくって、追加をしていくというような形にしております。

4-2の「観る」展示からということに関しては、昨年度、展示室で試行したということだったんですけれども、外部評価でご意見をいただいたように効果はどうだったのかということについては、これまできっちりと検討ができておりませんでした。あと、計画的に増やしていくというようなこともありませんでしたので、そういったことも含めて、どれだけ実際に展示室から情報を取りにいらっているのか、そういった内

容を深いところまでいけるということが果たして展示室でちゃんと利用者に伝わっているのかということを中心に検証した上で、飛んでいく先の例として電子図鑑やおうちミュージアムというのが例として挙がっておりますけれども、電子図鑑に関しては大塚のほう先ほど説明しましたDXの関係やICTを使った事業ということで連携しておりますし、おうちミュージアムに関してはコロナの最中に北海道博物館の方が考案されたものなんですけれども、いろいろな教育的な、普及的なネタがインターネット上にアップされていまして、そういったものに飛ぶということで、琵琶湖博物館も幾つかコンテンツを上げております。そういったものの内容をもう一度精査して、より展示等に結びついた内容にしていこうということを考えております。

4-3の展示の成長に関しては、今後何年間か予算が少し削減されるということを知っておりましたので、中長期の計画の中では少し後に遅らす形で展示の更新をしていくという内容に変更いたしました。展示に関しては、日常的な小規模な故障については常にずっと把握して、更新をしておりますけれども、やはり展示の中身が古くなってきてはいけないので、そういった内容は各学芸員が専門的な研究等を通して得た情報をアップデートしていくと同時に、展示を見る方たちにストレスがない環境をちゃんとつくって、例えばVRであったりとか、そういったものをより効果的に使ってもらえるようにするという方向で計画をつくっております。

一つ、新型コロナの感染防止のために、せっかくリニューアルで導入したにもかかわらず中止している展示というのも幾つかございまして、そういったものをどういう形で復活させていくか。そのまま復活できないもの等もありますので、その点も考慮して、私たちが展示で伝えたいメッセージをいかに効果的に知ってもらおうかということ、内容の点と手法の点と両方を検証して進めていきたいと思っています。

先ほど外部評価のほうでありましたけれども、効果はどうだったのかということは何年間かやった後に評価をして知るというのではなくて、小刻みに少しずつ検証して、内容をアップデートしていくような中長期の計画に少し変更いたしております。それは事業目標の1、2、3全てに共通することだと思っていただけて結構です。

以上です。

○会長：ありがとうございます。

○事務局：すみません、事業目標4の説明をさせていただきました。

もう大分時間が押し迫っていますので、すごく残念なんですけど、短めに議論を進めていただけるとありがたいです。どうもすみません。

○会長：それでは、ご質問等ありましたら、お願いいたします。

○事務局：（残りの項目をまとめて質問を受け付けてはどうかという提案があったことから）では、引き続いて、5、6の説明をさせていただいてから、4、5、6、まとめた議論ということでもよろしいでしょうか。

○会長：お願いします。

○事務局：それでは、事業目標5について、企画調整課長が説明させていただきます。事業目標5は、「ICTを活用し『世界』を見据えた広報を展開して、より多くの人の利用を実現します。また、双方向の広報によって常に博物館の社会的評価を情報収集し、博物館の魅力向上に役立てます」というような目標で行っております。

5-1のICTを活用した琵琶湖の魅力とその入口としての博物館の紹介というのは、こちらの事業では、内容につきましては研究の内容であるとか、交流であるとか、資料の内容であるとかというようなことで、それぞれの事業で進めていくものなんですけれども、資料については先ほどのデータベースを活用した公開をしていきますので、それ以外の部分については、展示の情報、それは本当は今年度やる予定だったものが去年度終わっていますので、展示の内容、動画の発信ということをやっています。

今年度、その残りの交流の部分ですね。びわ博フェスで皆様が発表してくれた内容について、それを公開していくようなページを現在作成しているところです。

もう一つは、研究の発信の部分は、研究の事業目標1の部分で芳賀のほうから説明がありましたとおり、研究発信した内容を、論文等で公表した内容をより分かりやすく解説するページというものをただいま検討中ですので、それで大体のプラットフォームができると。それをどうやったら人々に伝えていけるのかというようなことを、来年度以降解析をしながら修正していくという方針を計画に書いております。

5-2については、皆さんからいただいた博物館の評価、こういうふうに直したらどうかというようなご意見をアンケートというような形でこの26年間取っていますので、それをもう一度解析し直して、皆様が望んでいることがどういうふうになってきたのかというようなことを来年度以降に考えていって、それを事業に展開させていきたいというようなことを考えています。

5-3の来館しやすい環境の整備については、キャッシュレス・チケットレスのカウンターでの導入というようなことで、本当は去年度終わったんですけども、今年度やって終わりというような計画になっていたのを、来館しやすい環境というのは一体どういことを博物館としてすべきなのかというようなことを議論を始めたところです。ですから、もちろんハード面もありますし、例えば駐車場から博物館に来るまで、どの道に来ないといけないとか、そもそも駐車場からどうやって行ったらいいのか分からないというようなご意見などをどういうふうにして来館しやすいか。もう一つ別の面から言うと、ソフト面で博物館、そもそもお金がかかるのにちょっと来にくいんじゃないかというような、そういったようなソフトの部分というのも博物館としてどういう整備をすることが皆様にとって利用しやすいということになるのかというようなことを議論しながら、通常の議論の中で改善していくというようなことを現在計画として上げさせていただいております。では、続きまして、事業目標6を説明させていただきます。

○事務局：事業目標6、全体に関わってきますが、「博物館の活動を安定して継続する」という大きな意味になります。

一つは施設の話、また災害等の対策。また財源、企業との連携とかも含めてのそういう安定した支援を受ける仕組みづくりということになっております。

先ほどちょっとお話もさせていただきましたけれども、皆さんの関心も非常に高いところで、よりよい施設、貴重な標本等を将来に残すようにきちんとしてほしいというご意見、障害者、妊産婦さん、高齢者の方が気軽に来れるような、そういうふうな環境をつくってほしい等々の意見をいただいております。当然、それらをこちらのほうでも整理しながら進めていきたいんですけども、それをまず予算との兼ね合いの中で考えていかなければならないとも考えていますし、施設の特に改修の関係では、もう築30年近くたってきております。実際、設備の関係とかも当時のままのものもたくさんございます。この辺につきましても、来年度、専門家の人のご意見もいただきながら、そういう修繕の計画とかもつくっていければというので現在考えているところでございます。

また、6-2のほうですが、安定した活動基盤の関係では、クラウドファンディング等のご意見等も複数いただいておりますので、そこにつきましては、ちょっと文言を2023年のところですが、企業・団体・個人等の賛同を得られるような資金調達方法の調査・検討を進めるということで、クラウドファンディングを含めながら何ができるかと



いうのを考えていければというふうに直させていただいているところです。

以上です。

○会長：ありがとうございます。それでは、事業目標4から6、つなげて見て、ご意見やご質問等をお願いいたします。

○委員：最初にご紹介いただいたとおり、公募なんですけれども、専門がデータ分析ということで座らせていただいております。

アンケートの調査についての分析であったりとか、数値解析というところで、そこについてどういった観点というか、どういうふうにやっていくのかというのは、まだ検討中なのかなとは思っているので、また何か具体的に決まったこととかがあれば教えていただきたいなと思いました。また、私のほうからも何かご提案できることとかがあったら、一緒に考えさせていただけたらなと思っています。

SNSであったりとか、ユーチューブとかもやられていて、アクセス解析というところにもつながってくるんですけれども、この目標1から5までの間でいろんなコンテンツというか、お客さんであったり、団体であったり、食いつきやすいようなコンテンツというのは魅力的なものがたくさんあるなと思っていて、その公開の仕方とか、もちろん発信力については博物館自体もそうですし、県からの発信力とかもあって強いのはもちろんなんですけれども、その分拡散されやすい。いわゆる最近で言うと、バズりやすいというところにもつながってくるかなと思っているので、またバズりコンテンツも結構豊富な博物館なんだなというふうに、私自身は琵琶湖博物館の一ファンとしては思っているのですが、琵琶湖そのものであったりとか、ここの展示物だったり、知見のコンテンツというのをいかに拡散されるのかということも、一緒に解析していったらいんじゃないかなというふうに思いました。以上になります。

○会長：ありがとうございます。今のご意見につきまして、事務局から。

○事務局：大変ありがたいご意見をいただきまして、ありがとうございます。頼りにしています。

少しやり始めている部分については、来館者アンケートでどういう層が来ているかという件なんかはあまり変わってないなという感じではあるんですけれども、中学生とかそのあたりの年齢の人がだんだん少なくなってきたなというような感じは今受けています。

それ以外のアクセス解析の部分については、Google アナリティクスというものを使って少し解析をしています。例えば去年、2022年1月から12月で大体270万件ぐらいアクセスがありました。そのうちの大体6割ぐらいが琵琶湖博物館の行き方とか、予約の取り方とか、どんな展示があるのかというような部分のアクセスがほとんどでした。去年整備させていただいた360度見れる展示室の動画は、残念ながら1%です。でも、1%でも2万7,000件アクセスがあるということなので、かなりたくさんの方がページアクセスしていただいているという中で、その奥底にあるやつについては、まだまだ観覧していただいていないなということから、そういうページに皆さんが行き着くにはどうしたらいいのかというようなことを今後検討していかないといけないかなというふうに思っています。以上です。

○委員：この事業目標6に関してですけれども、我々、例えば私の本業は福祉なんですけれども、福祉のほうなんかはBCP計画というのはご存じでしょうか。英語で言うと、「Business Continuity Plan」、日本語に訳すと、「事業継続強化計画」です。これをいろんなところで出ささいと。計画を立てなさいというのが求められていますが、これは博物館さんは関係あるのかなのか。でも、内容的にはほぼこの6-1に挙げられている内容をもっと具体的にそれぞれの団体、施設等で細かな計画を立てなさいというものが非常に求められておりますが、ここまでは特には博物館さんはBCP計画というのはご存じではないですか。

○事務局：ありがとうございます。現状、県の組織全体で実施計画というのはつくられていまして、その中で非常時の優先業務を決めたりとか、災害時に何人登庁できるかとか、そういうことを定めているのがあるんですけれども、その県全体の基準でいくと、あまり博物館というのはそういう優先業務はあまりないんですね。要は休みにしてしまえ、でも、そんなに影響はないという、そういう部分もあるんですけれども、それとは別に私どもとしては、こういう危機管理の計画をつくって、しっかりマニュアルを定めて、何かあってもできる限り開館が維持できるような形で考えていきたいというふうに思っております。

○委員：1つだけ関連でいくと、例えば災害時にいろんな想定、この場所が何らかの形で提供しなければならないとか、そういう想定は、それは博物館さんの場合はされていないですか。それとも本当に何かの場合、提供しなければならないとなると、このBCP

計画とも関連してくるかなと思っていたんですけども、そこまでの想定はされていないということですか。

○事務局：想定はしていないといたしますか、ここは結構交通不便地で、あまりほかの施設がいっぱいあるわけではなくて、人がいっぱいいるわけではなくて、ここへ来られている方を一時避難させるとか、そういうことは必要かもしれないですけども、ほかからここへ集まってくるというのはちょっと考えにくいのかなと。ただ、琵琶湖全体の管理の中で、この烏丸半島というのは本来、水資源機構の土地でございまして、琵琶湖開発施設として治水上の何かに使われるということはあるんだらうなと思っております。私どもとしては、特にそこは想定はしておりません。

○委員：分かりました。

○会長：ありがとうございます。ほかに、ご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

## (2) その他

○会長：それでは、議題の(2)の事業目標から離れまして、その他、博物館全般につきまして、ご意見、ご質問等ありましたら、委員の皆さんからお願いいたします。

○委員：以前、ブックレットで、子ども向けの本を書くというお話が出ていたと思うんですけども、その進捗状況は。先ほどミュージアムショップに行ったときに頂いた「古代湖とともに生きる」という、これの子ども版があってもいいかなと思ったりしました。

○事務局：ありがとうございます。

今やっている第三次中長期計画の前の段階のときの計画の中で、子ども向けのそういったブックレットに匹敵するようなものを出していければどうかという話をしていたんですけども、なかなか実際のところは、館主導でというのはできなかったというのが正直なところです。

ただ、外部の出版社、あるいは絵本作家の方が当館の学芸員と組みながら本を作り上げるというようなことは、今まで4例ぐらいあるという形で、その都度という形にはなっているんですけども、今後、今言っていただいたような展示ガイドなんかも、それは出版にするのか、ICTを使ったような感じで、もうタブレットに直接というような、そういう形式も変えながら検討できたらなというふうに思っております。

○会長：ほかにご意見等よろしいでしょうか。

○委員：すみません、話が前の評価関係のところにつながってくるのですが、今回初めての試みである外部評価をさせていただいたのですが、結構テーマとかいろいろあり、そのなかで指摘したところを今回こうやって新しい計画のところ、また計画を見直すとか修正ということで反映させていただいて、非常にありがたいと思っています。評価しているときに思ったのですが、私自身が琵琶湖博物館に何度も来て、いろいろ見たりとか、あるいはホームページを見て知ったりすればいいのしょうけれども、評価をするたびに、これ実際どうなっているんだろうとか分からない部分も結構あったりしたんですね。

それで、この協議会ですが、年度で今2回になっていますが、できればもう一回ぐらい増やしていただけたら、委員の方々をはじめ皆さん、お忙しいこともあるかもしれませんが、この計画に対してどういうふうに進んだのか、それを説明していただく機会がもう1回あれば、年度の途中で今こういうことをやっていますよとか、そういうことを紹介していただく協議会があるといいと思います。本当は月1回ぐらいあると、すごく評価がやりやすくなるんですけども、それはさすがに皆さん、お忙しいところでしょうから、ただ年2回だとちょっと少ないかなという感じがして、今日も2時間じゃなくて、このままずっと続けば3時間ぐらいになるかもしれませんが、そういうことから1回ぐらい増やしていただくのを検討していただければと思います。もちろん、委員の皆さんの都合とかもあるでしょうけれども、検討していただければと思います。

○会長：事務局から、今のご意見につきましていかがでしょうか。

○館長：積極的なご意見、ありがとうございます。やっぱり本当にこの内容を検討していただくと思ったら、確におっしゃるように、十分な時間じゃないと思いますし、また今いただいたご意見をちょっとこちらでも検討させていただいて、できる限り皆さんと一緒に議論できるような形で一緒に進めていけるような形を考えていきたいと思えます。ありがとうございます。

○会長：ありがとうございます。外部評価は毎年、これからもやっていくということですので、また新たな検討の場を皆さんと持てればと思います。

その他として、ほかにご意見、ご質問等がありますか。

○委員：どれがというわけじゃないんですけども、さっきのアクセス数で270万件あった

けれども、(360度動画は) 1%だったというところで、ウェブサイトの博物館のホームページの中でのサイトのアクセス数の話だったと思うんですけども、別の委員さんが言っておられたみたいに、人気があるという、この前来たとき、あれ、ちょっと前だったかな、動画を見せてくださったんですけども、ああいうのは入っていないんですか、そこには。ああいうのって見ておられたかなと思うんです。

○事務局：ユーチューブに載っているページについては、ユーチューブそのもののページになるので、今回のアクセス数には入っていないです。ただ、ユーチューブは閲覧数とかはこちらで確認することができますので、もちろん何万件という形で見てもらっているコンテンツもあれば、あまり大して伸びていないというコンテンツもありますので、そういうのをどういうコンテンツが人気なのか、人気のものだけを上げるのは博物館としては違いますので、どうやったらよりよく楽しく見てもらえるのか、こういう情報が欲しいと思っている方にもそういう動画をどうやったら提供できるのかというようなことを、それぞれのページについて考えていきたいと思っています。

○委員：そうですね。必要なところもあると思うんですけども、やっぱりまずは見てもらうことから始まると思うので、見てもらわなければ届かないから、やっぱり見てもらっているところというのは、何か有意義なポイントがあるのではないかなと思うので、学芸員の人たち、頑張っておられるので、あれはいいかなと思っていました。

それから、すみません、さっきの事業目標3にちょっとまた戻りますんですけども、3-3の教師と教員のことなんですが、そこに受講者も入ってきて、どれが主語なのかなと思うので、それはちょっとまた後で教えてほしいと思います。

以上です。

○会長：ありがとうございます。

○委員：チョウ展のすばらしい企画展をありがとうございました。私も見せていただきましてけれども、親子でずっとケースの中の標本を覗き込んで、楽しそうにずうっと話しておられた姿がとても印象に残っています。また、ゆったりと見られるようなコレクションもすばしかったです。本当によかったと思っています。時間がないので、このような感想です。

○事務局：今のご感想、本当にありがとうございます。おかげさまで8万5,291人、過去最高の企画展で、県内外から多くの方が来ていただいて、好評のうちに終わりました。

もともとこの企画展は、地域で昆虫を研究している人たちとの共同研究で、滋賀県のチョウの分布の移り変わりの研究発信ということと、あと先ほどあった布藤コレクションの資料の整理・登録が終わって、それを公開するというこの2点があって、それがきっかけで終わった。整理・登録に5年間、資料整理ですごい時間がかかりました。地道な作業だったんですけども、5年間ぐらいかかって、その研究と資料整理の成果があって、あと地域の人との連携もあったんですけども、そういうこともあって企画展示ができて、非常に好評でした。多くの実物標本の展示を中心にしたのと、あとはイモムシベンチとか、オオムラサキの巨大模型とか、B.S.P総選挙で「推しチョウ」を投票してもらうようなコーナーを設けて、非常に好評だったということもあったと思います。あと、夏休み前、広報関係で、県内の小学校の全校生徒にチラシを配付したというのも非常に広報効果があったと感じております。ありがとうございました。

○委員：ありがとうございました。

○会長：それでは、活発なご意見、ありがとうございました。進行のほうの不慣れで申し訳ありません。では、事務局に進行をお返しいたします。ご協力ありがとうございました。

○事務局：事務局からご案内です。お手元に「謎解きクイズラリー」という冊子がございます。今、閑散期対策というので、高齢層も含めてクイズをつくっているんですけども、特に今回ご紹介したいのは、裏のページを見ていただきますと、ノベルティーオリジナルグッズをプレゼントすることになっております。実は、これが今いらっしゃる委員さんのところの協力の下にオリジナルグッズを作っていたということ、もしコメントがあればご紹介いただければと思います。お願いいたします。

○委員：ご紹介いただきまして、ありがとうございます。

ここの「お魚ダジャレミニ便箋」なんですけれども、学芸員さんの方がこのダジャレとかも考えられて、ちょっと小さくて見えにくいんですけども、「どうじょー、よろしく！」とか、もうめっちゃかわいいです。会社の中でもすごく好評なんですけれども、紙は琵琶湖・淀川水系のヨシ紙で作成させていただいております。こういう学芸員という名前を聞くだけで、子どもたちはすごい人みたいな感じがするんですけども、こういうお魚とかダジャレとかが入ると、よりファンが増えるんじゃないかなと思っております。ありがとうございました。

○事務局：ありがとうございました。

#### 4 閉 会

○司会： 村上会長並びに委員の皆様、長時間にわたりまして熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。

本日いただきましたご意見、ご指摘は私どものほうで十分検討させていただきまして、今後の博物館運営に活かしてまいりたいと考えております。

それでは、これをもちまして、滋賀県立琵琶湖博物館協議会令和4年度第2回会議を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。